

考古学への旅 Part.10

平成 23 年度文化財センター発掘調査報告会

2012.2.19

報告 1

河内町中河内

さんぎょ
山居遺跡

石垣敏之

—縄文時代の土器—

報告 2

豊栄町乃美

のみ
乃美 1 号遺跡

石垣敏之

—弥生～古墳時代・中世の集落跡—

報告 3

高屋町うめの辺

たかや
高屋うめの辺 1・2号遺跡

植田広

—奈良・平安時代の集落跡—

報告 4

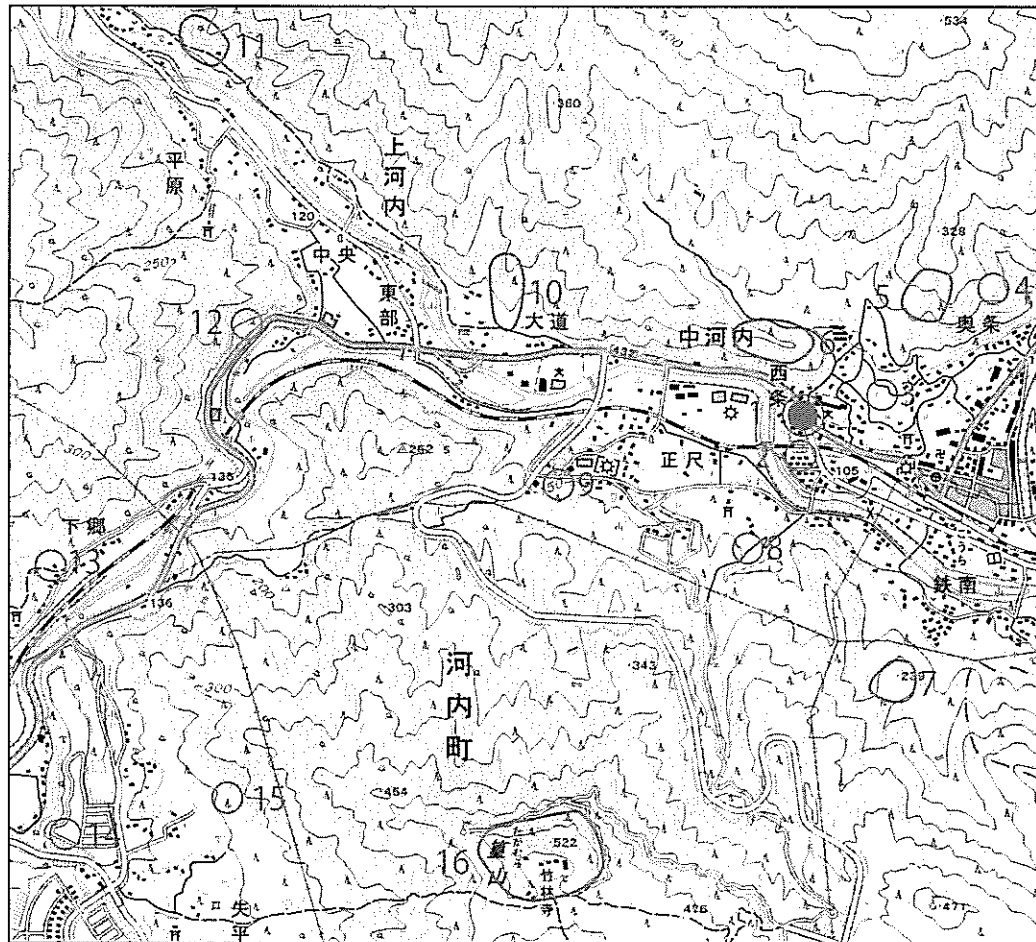
河内町宇山

河内町民俗資料整理
—近世・近代の民具—

中山学

はじめに

山居遺跡は、国道432号線の改良工事に伴って、平成23年11月から12月まで発掘調査を実施しました。遺跡は、巨石が露呈する急峻な山の裾部に、わずかに広がる緩やかな斜面に立地しています。



山居遺跡周辺遺跡分布図 (1:25,000)

1. 山居遺跡
2. 山居遺跡
3. 奥条遺跡
4. 白土山遺跡
5. 白土山古墳群
6. 茶臼山城跡
7. 藤ヶ城跡
8. 塔の鼻遺跡
9. 敷地古墳
10. 大道城跡
11. 向城遺跡
12. 二反田古墳群
13. 金堀古墳
14. 入野中山遺跡
15. 矢平古墳群
16. 竹林寺

主な遺構と遺物

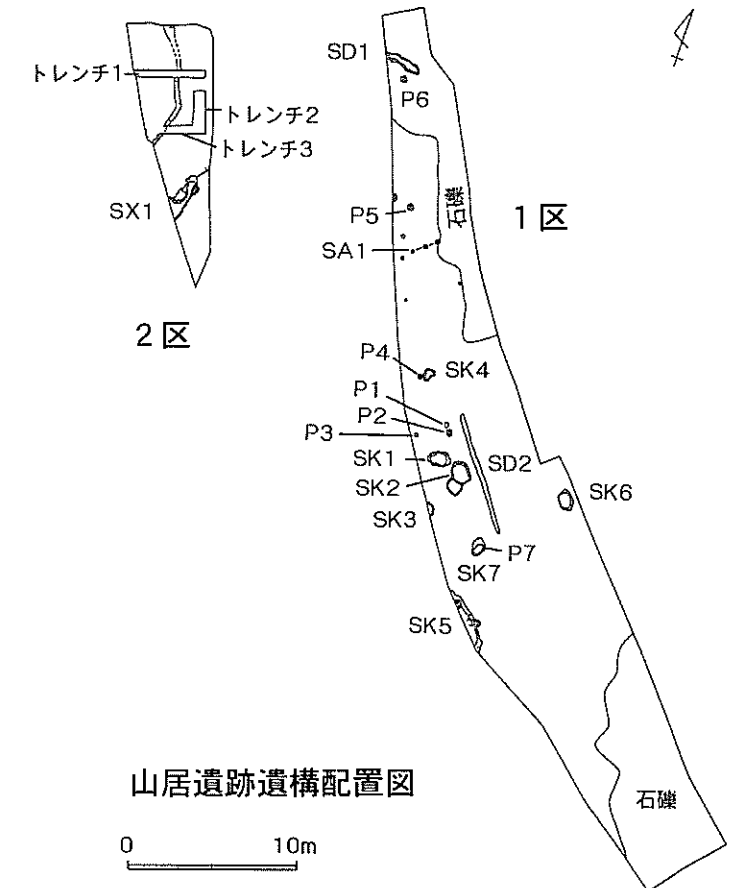
1区からは、ピット列・溝状遺構・土坑などを検出し、2区からは性格不明（竪穴住居状）土坑を検出しました。また、2区を覆っていた遺物包含層（黒褐色土）から縄文土器などが出土しました。

1区出土遺物のほとんどは中近世～近代の陶磁器・土師質土器で、須恵器・舶載の青磁と瓦質土器が数点、2区の出土遺物は、須恵器と中近世の土師質土器、縄文土器などです。

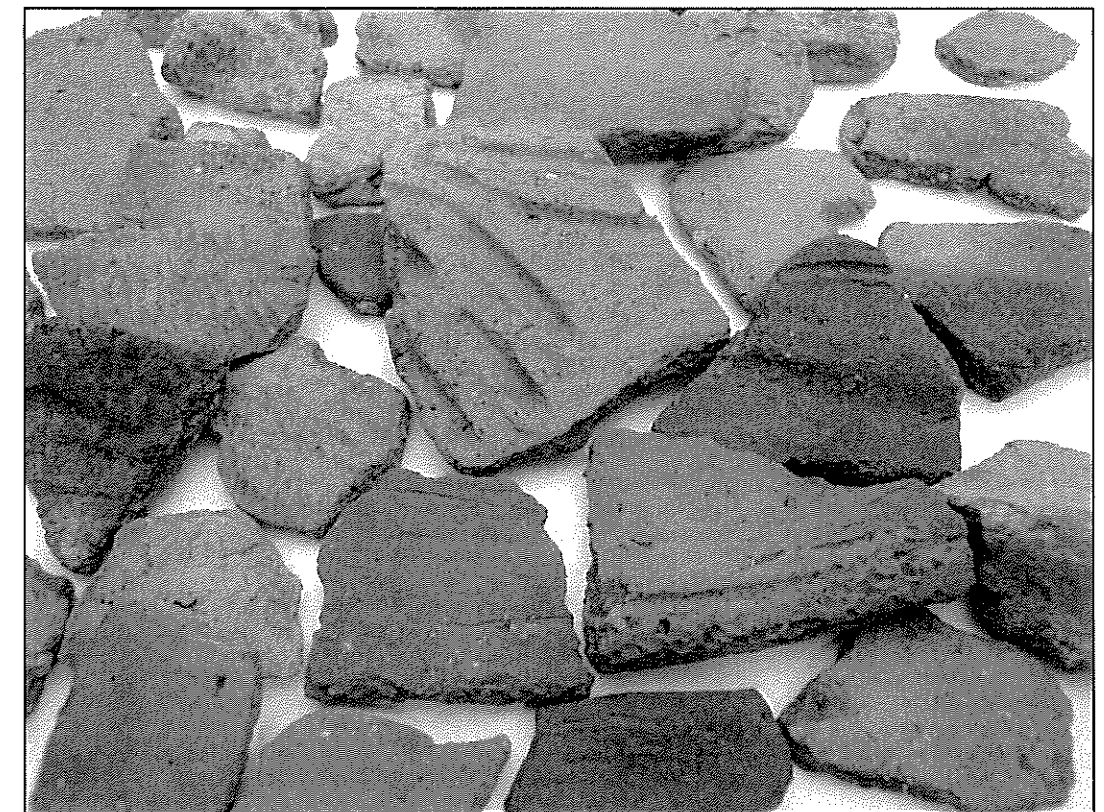
おわりに

今回出土した縄文土器は、有文土器と無文土器（器面調整痕）に分けられます。さらに有文土器は、縄文を有するものと縄文を持たない沈線文を中心とするものに分けることができます。何れも、資料が小破片のため詳細は不明ですが、「磨消縄文系」の土器で、福田KⅡ式～彦崎KⅡ式併行期と考えられる資料です。

これらは、須恵器や土師質土器を含んだ包含層からの出土で、流れ込みによる2次堆積と考えられます。平成2年の調査成果も踏まえると、当該地域に縄文時代の集落が存在していたことは間違いないでしょう。



山居遺跡遺構配置図

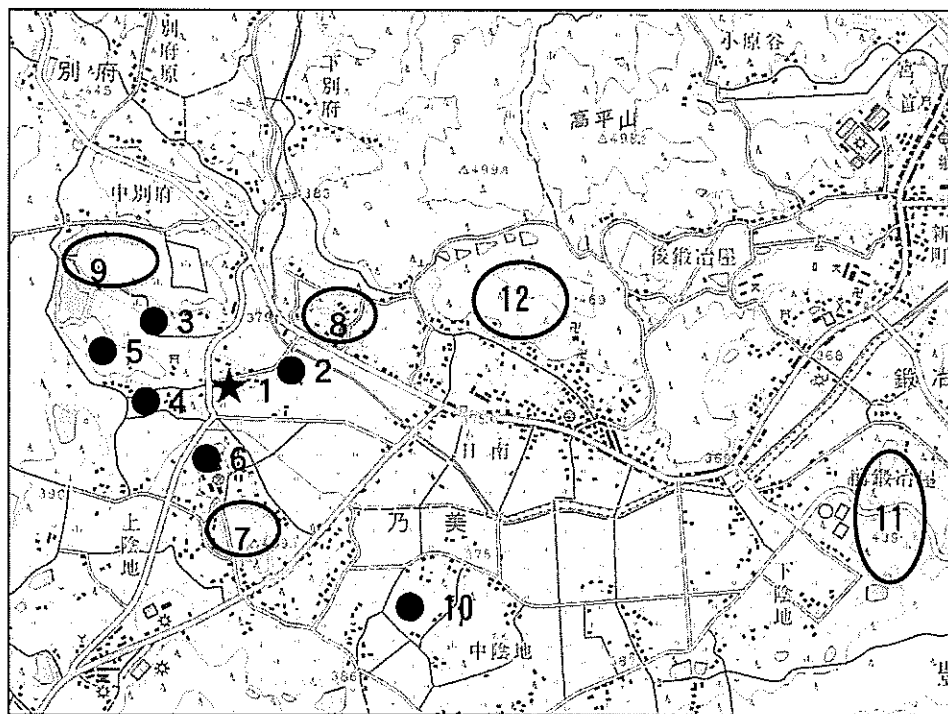


山居遺跡から出土した縄文土器

豊栄町乃美 乃美1号遺跡 —弥生～古墳時代・中世の集落跡—

はじめに

乃美1号遺跡は、県営経営体育成基盤整備事業（※ほ場整備）に伴って、平成23年5月から10月まで発掘調査を実施しました。この遺跡は、西から東に伸びる低い丘陵上に立地していて、発掘調査では弥生時代から古墳時代と中世の集落跡が検出されています。



- 1 乃美1号遺跡
- 2 乃美2号遺跡
- 3 乃美3号遺跡
- 4 乃美4号遺跡
- 5 宮が迫古墳群
- 6 賀茂北高校遺跡
- 7 行宗古墳群
- 8 助貞古墳群
- 9 沢田平古墳群
- 10 大塚谷遺跡
- 11 山王古墳群
- 12 宇都山城跡

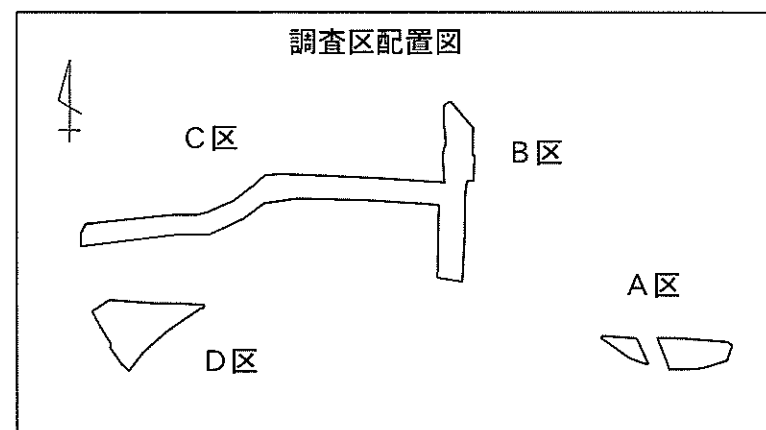
第1図 乃美1号遺跡と周辺の遺跡

主な遺構

今回は、西から東に伸びる丘陵の南向きの緩やかな斜面の一部を発掘調査しました。その結果、多くの遺構が重なり合って見つかりました。

中世の遺構

調査によって、まず見つかったのは、C区の西半部分とB区の第1面（黒色土）に掘り込まれた、たくさんの小さな穴と浅い溝です。たくさんの小さな穴は、ピットと呼ばれ、多くは掘立柱建物跡（SB2など）の柱を立てるために掘られた穴や、杭



を立てた穴（SA1など）と考えられます。土師質土器と呼ばれる小さな皿や杯が出土しましたので、中世の遺構面と考えられます。

次に、A区及びC区の東半部分と、B区の黒色土を取り除いた下の面から、弥生時代と古墳時代の住居跡や溝などが見つかりました。

なお、D区の全域には（弥生土器と少しの須恵器を含む）黒色土が堆積しており、その下から掘立柱建物跡1棟や土坑などが数基見つかりましたが、明確な時代はわかりませんでした。

弥生時代の遺構

遺跡が立地する尾根東側の先端に溝が見つかりました（A区SD1）。溝が埋まった後に構築された竪穴住居跡から土師器が出土していますので、弥生時代のものと考えるのが妥当でしょう。B～D区では溝の続きが見つかりませんでした。環濠の一部と考えられます。

竪穴住居跡は11棟（B区：SB1・SB3～SB8・SX1、C区：SB1～3）が見つかりました。多くの住居跡はそれぞれ数回にわたり建て替えられ、拡張されています（B区：SB1・SB3・SB5・SB6、C区SB3）。おそらく、子供が増えるなど、居住する人員が増加したり、作業空間が必要となったりするなどの要因があったものと推測されます。

また、住居跡どうしが重なり合った状況で検出されています（B区：SB3⇔SB8⇔SB7⇔SB5⇔SB8）。これは、それぞれの住居の存続した時期が少しずつ異なっていることと、この住居の密集する場所が、生活するのに都合の良い場所であり、似たような選地をした結果、かつて住居があった所に新たに住居が作られることにより、重なり合うという現象が起きたためと考えられます。

住居跡が全て埋まった後、これらの住居があった場所を貫くように、溝（B区SD7、C区SX2）が作られています。この溝からは、多量の土器がまとまって出土しました。

土器の出土した状況から、溝の半分以上が土砂で埋まって、溝としての機能が失われかけた段階で、窪みをゴミ穴として土器を大量に廃棄することに利用し、溝を完全に埋め立てたと考えられます。

古墳時代の遺構

竪穴住居跡は、2棟（A区SB1、C区SB4）が見つかりました。平面形は方形を呈し、竈はありません。また、C区SB4には、住居跡の床面から土坑が3基検出されましたが、遺物もほとんどなく、詳細は不明です。

主な出土遺物

上述したように、遺跡を覆っていた黒色土（遺物包含層）の中に弥生時代（前期～後期）の土器が多量に含まれていました。また、調査区の南端部（A区SX2）には、

こがしだい じんとう だい わき
拳大～人頭大の礫が多量に集まっていましたが、その中にも多量の弥生土器が含まれていました。

竪穴住居跡から出土した土器は、弥生時代中期～後期のものと考えられます。また、B区SD7・C区SX2に捨てられた多量の土器は、弥生時代後期末～古墳時代初頭頃のものと考えられます。

たまらい
玉類について

B区SB6（埋土）とC区SB3（埋土）から碧玉製管玉各1点が、B区SB8（床面）からガラス小玉1点が出土しました。これらは装飾品で、墳墓から出土する例が多いのですが、今回のように住居跡から出土することは珍しいといえます。

東広島市内の弥生時代の住居跡から出土した例は次のとおりです。

遺跡名	場所	遺構名	出土品	時代
しょうふくし 浄福寺2号遺跡	たかやたかみ おお 高屋高美が丘	SB65 床	ガラス小玉 2 点	弥生時代後期中葉(古)
		SB25b 床	ガラス小玉 1 点	弥生時代後期中葉(新)
てんじん 天神遺跡	たかやたかみ おお 高屋高美が丘	SB2	凝灰岩製管玉 1 点 ガラス小玉 1 点	弥生時代後期前葉
よこた 横田1号遺跡	さいしやうちやうじ け 西条町寺家	SB10	ガラス管玉 1 点 ガラス小玉 2 点	弥生時代後期前葉 ※青銅器(銅剣の一部)も出土
		SB29	ガラス小玉 1 点	弥生時代後期後半

このほか、「助平2号遺跡（西条中央）：管玉1点」、「峠谷遺跡（志和東）：ガラス小玉1点」が遺構外ですが、出土例があります。

なお、豊栄町内の中屋遺跡では、古墳時代前期前葉の住居跡からガラス小玉が2点出土しています。

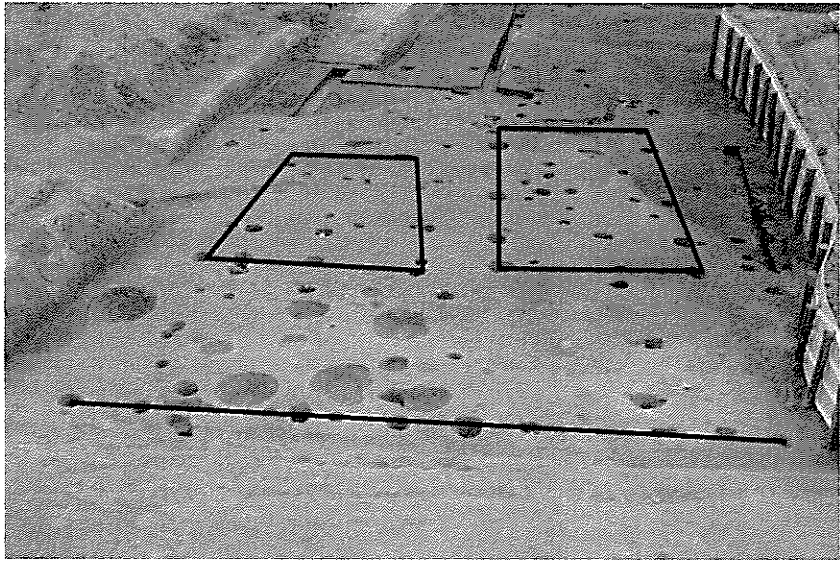
おわりに

今回は、限られた範囲の発掘調査ではあったが、多くの情報を得ることができました。これらの成果は、乃美地区だけでなく、豊栄町や東広島市の歴史を考える上で、大変貴重な資料となるでしょう。

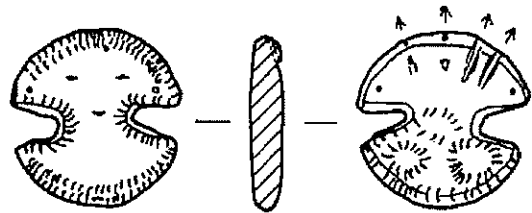
- ①弥生時代前期～後期末期の土器が多量に出土した。
- ②弥生時代中期～後期の住居は、何度も建て替え（拡張し）た様子が伺える。
- ③住居跡から見つかることが珍しい玉類が出土した。
- ④弥生時代中期～後期の住居跡を壊して造られた溝に弥生時代後期末～古墳時代初頭頃の土器がまとまって捨てられていた。
- ⑤ある時期に、黒色土が遺跡の広い範囲を覆った。
- ⑥古墳時代及び古代を代表する焼物である須恵器があまり出土していない。
- ⑦弥生時代後期末～古墳時代初頭頃の溝の後、中世まで空白の時間がある。



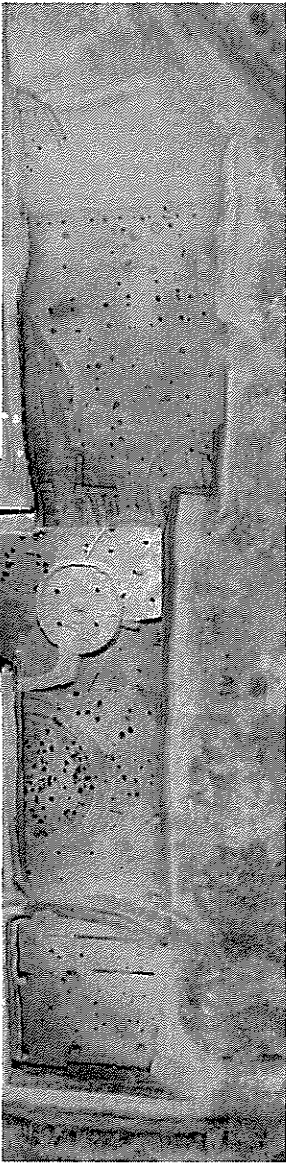
C区SD1調査風景(南から)



B区第1面(中世)完掘状況



福山市神辺町 国分寺裏山遺跡出土例



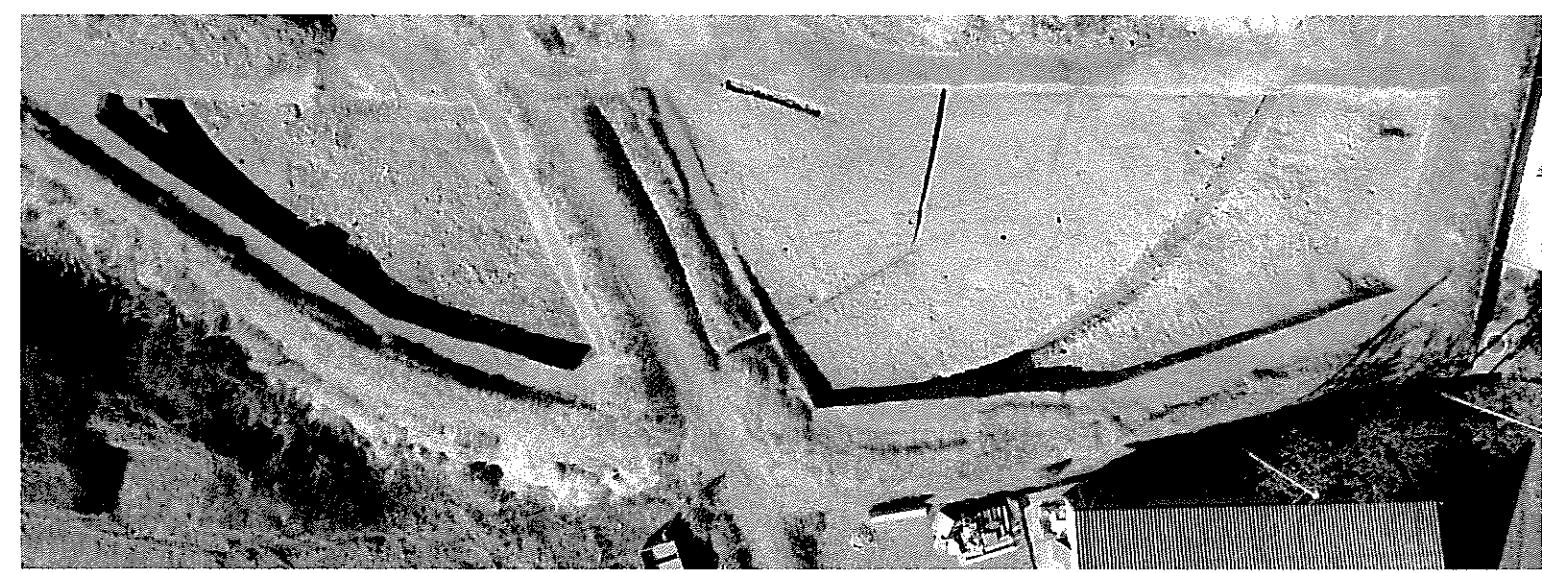
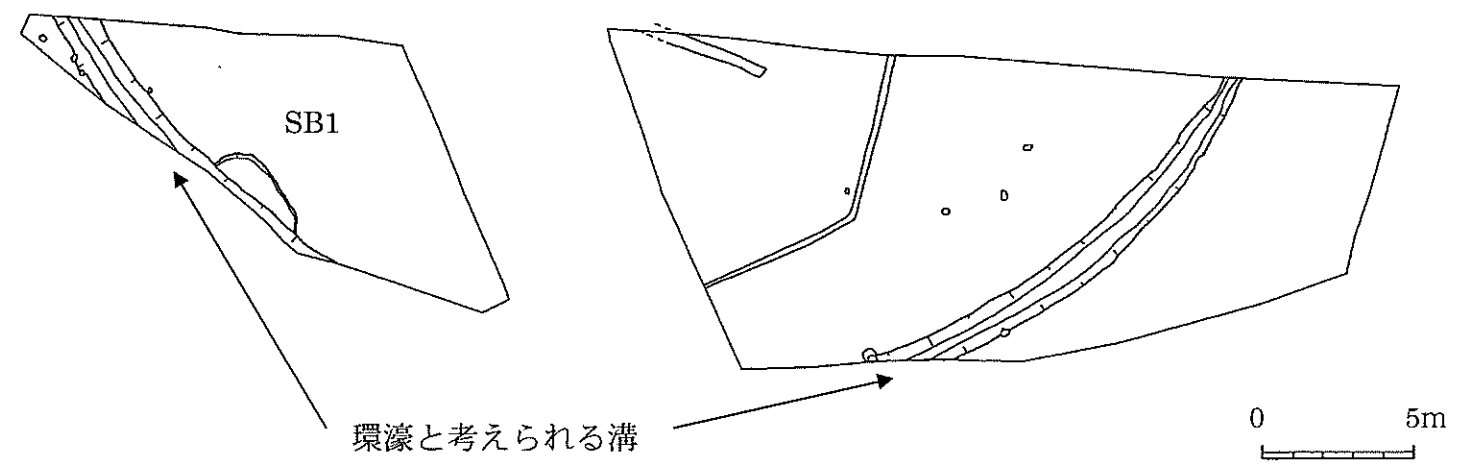
B・C区空中写真



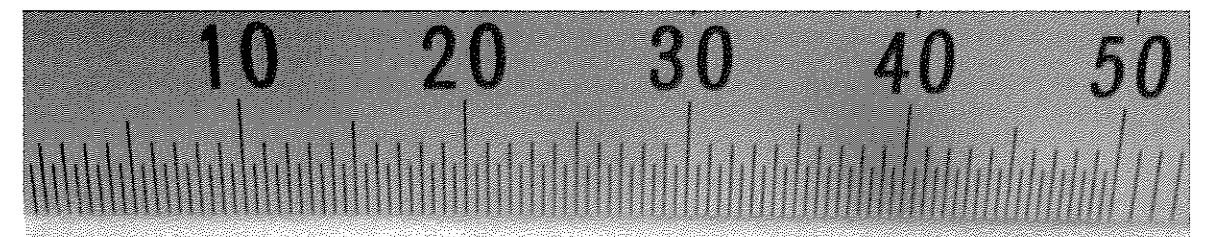
B区黒色土から出土した分銅形土製品

4

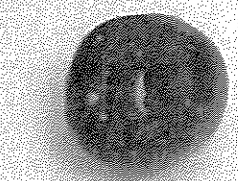
乃美1号遺跡A区遺構配置図(1:250)



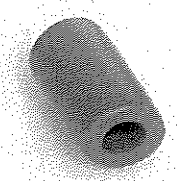
A区空中写真



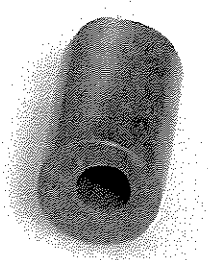
出土した玉類



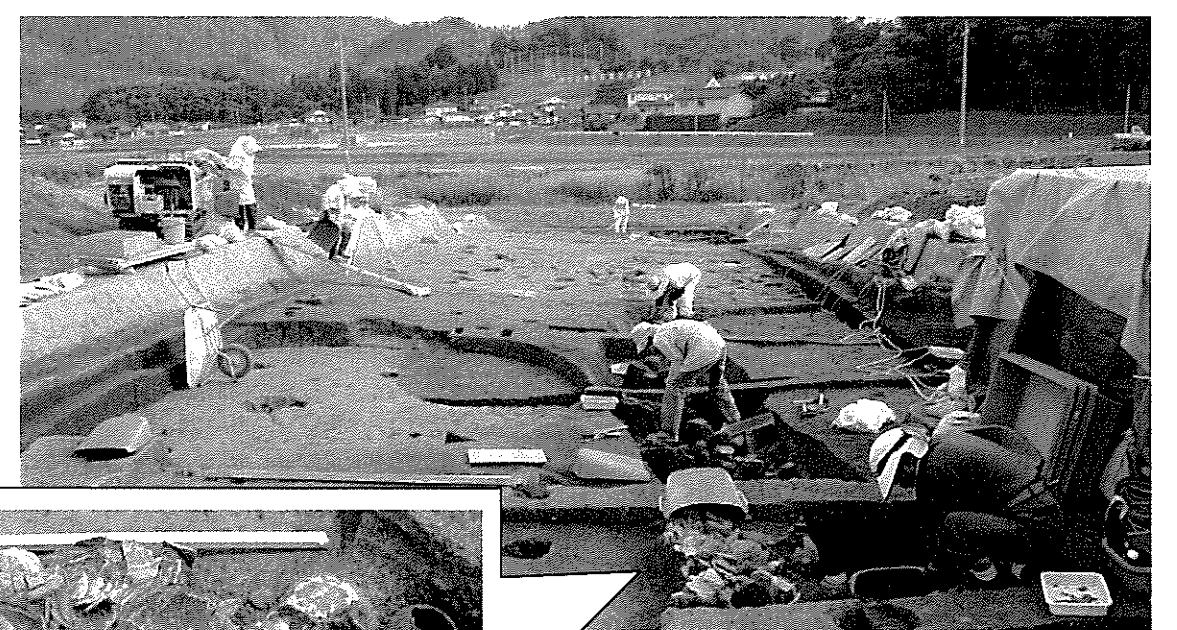
B区SB8床面出土
高さ約4.5mm
直径約6mm
穴径約1.5mm



B区SB6埋土出土
長さ約6mm
直径約3.3mm
穴径約1.5mm



C区SB3埋土出土
残存長約9.1mm
直径約5.1mm
穴径約1.7mm



SD7 ↑

作業風景



その下の様子



SD7遺物出土状況

近畿大学工学部東広島キャンパス内の発掘調査について

(財) 東広島市教育文化振興事業団
文化財センター 植田 広

I. はじめに

所在地：広島県東広島市高屋うめの辺

調査期間：平成23年7月11日から同年12月5日までの約5ヶ月間

調査面積：高屋うめの辺1号遺跡(2,800㎡)

高屋うめの辺2号遺跡(500㎡)

調査原因：近畿大学工学部東広島キャンパス敷地拡張工事に伴うもの

・地理的立地について

遺跡の立地する高屋町は、北東部に位置する。遺跡の周辺には標高220～270mの比較的なだらかな低丘陵が広がり、西側には杵原川が形成する沖積地が形成されている。また、古代山陽道がこの地域を通過していたといわれており、古来より交通の要衝であったことが知られています。

II. 検出された遺構について

【高屋うめの辺1号遺跡検出遺構】

塚状遺構1基、段状遺構7軒、土坑6基、溝状遺構3条、性格不明遺構2基、柱穴等を検出しました。

【高屋うめの辺2号遺跡検出遺構】

塚状遺構1基、性格不明遺構1基、自然流路1条を検出しました。

III. 出土した遺物について

【高屋うめの辺1号遺跡から出土したもの】

・土師器(皿・坏)、須恵器(坏蓋・坏・碗・壺)、鉄製品(刀子・鉄刀・鉄釘)、銅製品(銚帯「巡方」1点)、石製品(石鏃・磨製石斧)

【高屋うめの辺2号遺跡から出土したもの】 出土遺物無し。

IV. 調査の成果

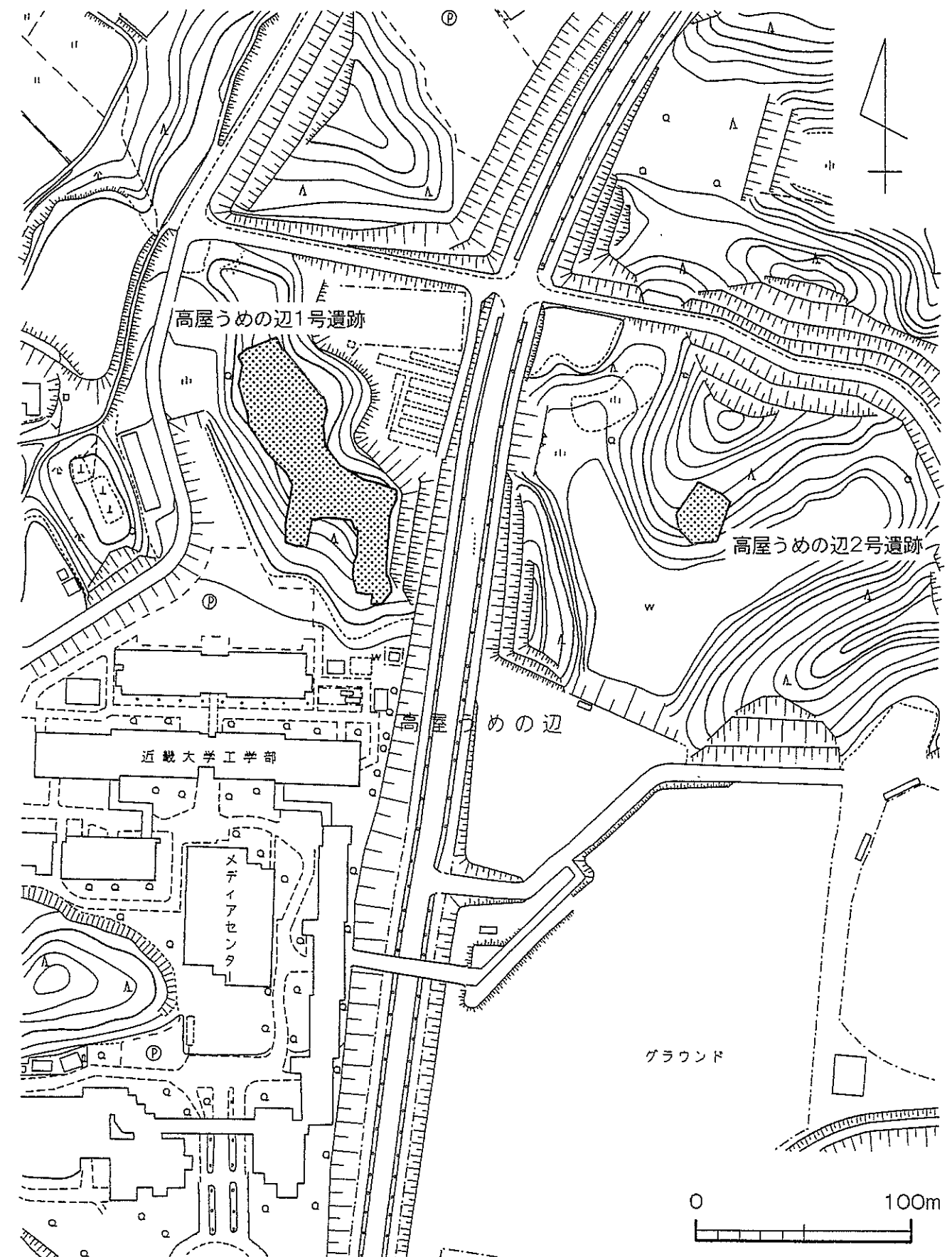
1 高屋うめの辺1号遺跡の検討

・7世紀後半から8世紀前半頃の段状遺構の検出

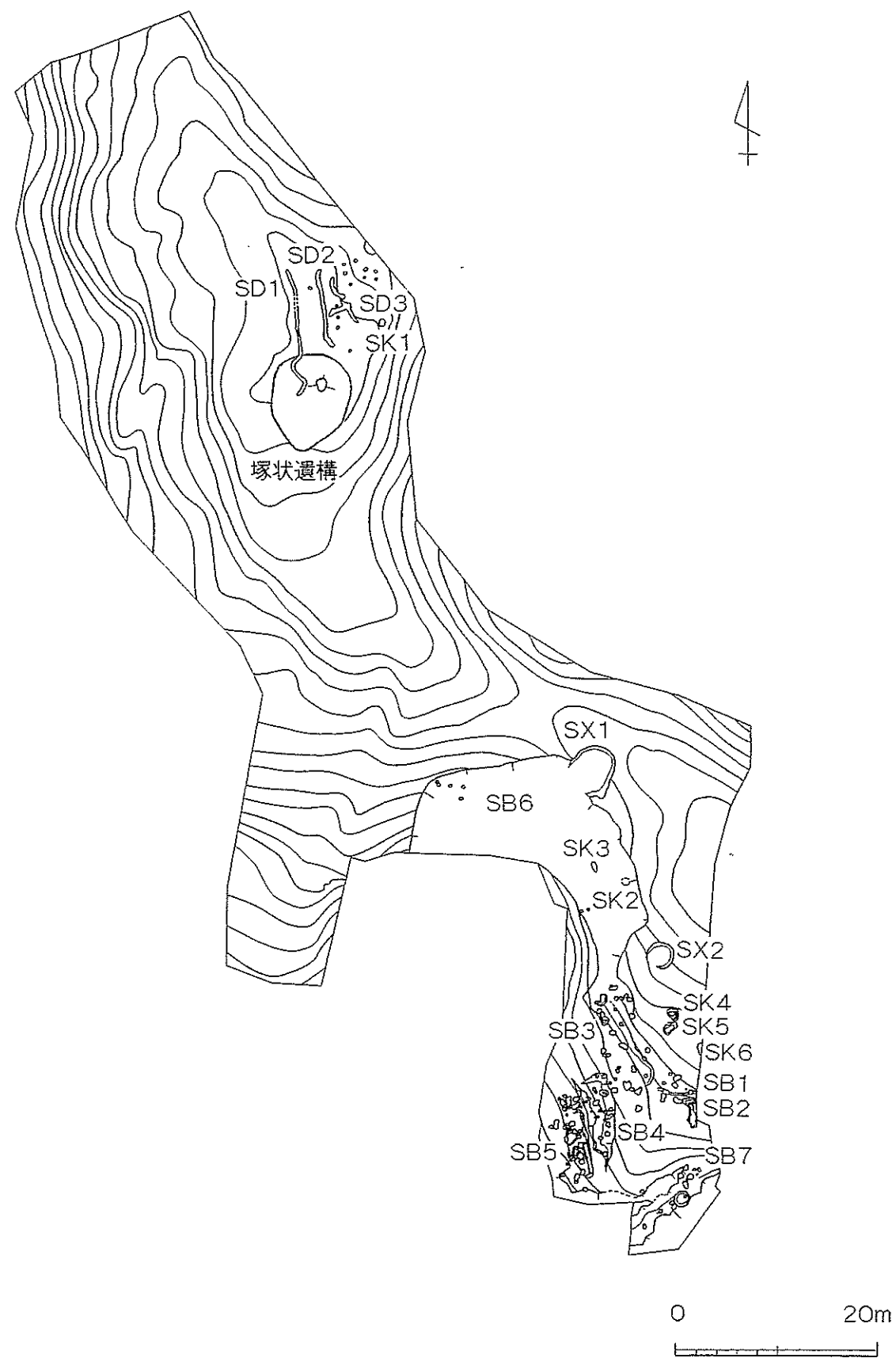
何らかの役所跡か、若しくは工房跡(鉄製品の鍛冶を行っていたのか)と思われるが、詳細については流れ込みの堆積がみられるため不明である。また、出土遺物の陶馬1点だけでは何とも言えませんが祭祀が行われた可能性も考えられます。

2 高屋うめの辺2号遺跡の検討

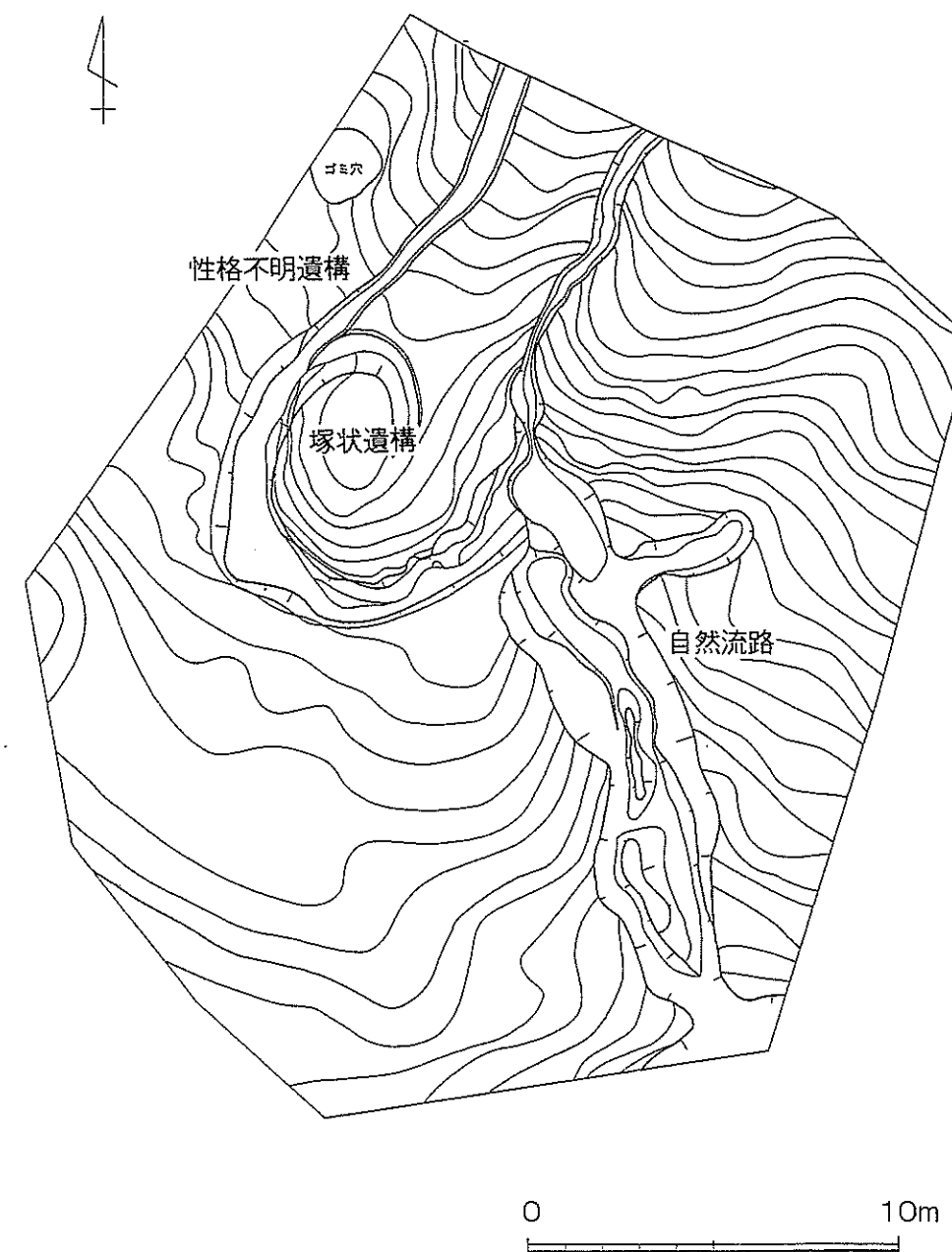
試掘及び分布調査の段階では古墳と考えられていたが、発掘調査において表土直下が地山層となっており、古墳築造の特徴である背面カットや埋葬施設などが確認できないことから、塚状の遺構と考えられます。また、出土遺物が無いことなどから、塚状遺構の構築時期や用途及び目的等の詳細は今のところわかっていません。



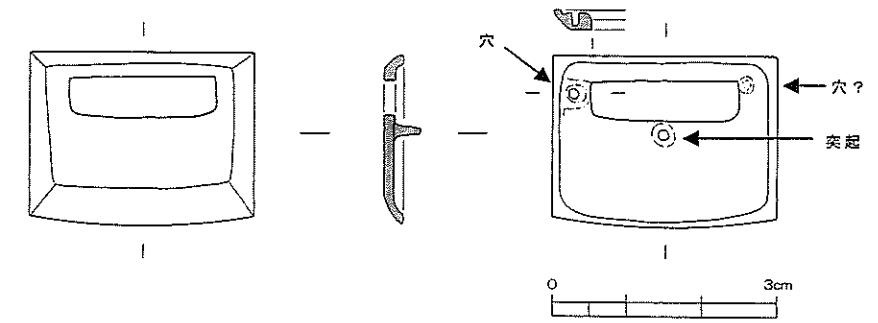
高屋うめの辺1号・2号遺跡調査範囲図(1:2,500)



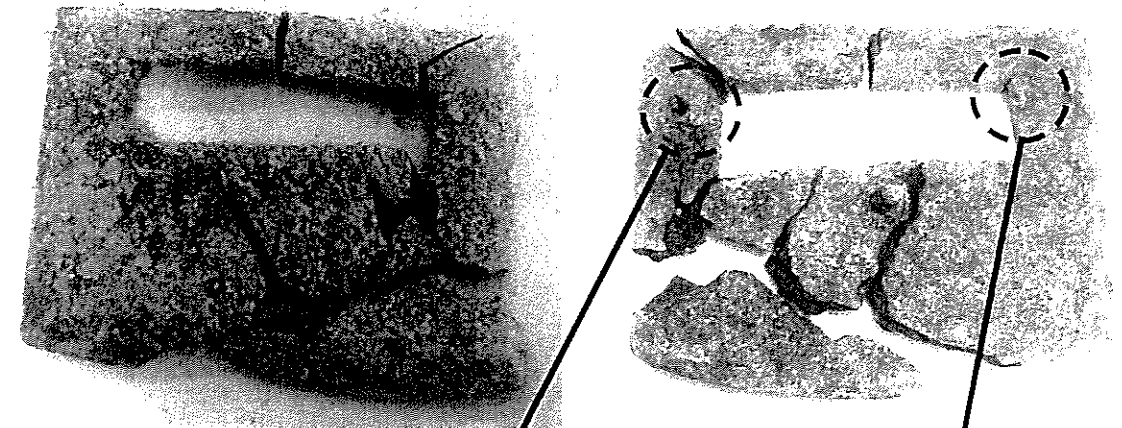
高屋うめの辺1号遺跡 遺構配置図 (1:600)



高屋うめの辺2号遺跡 遺構配置図 (1:200)



実測図

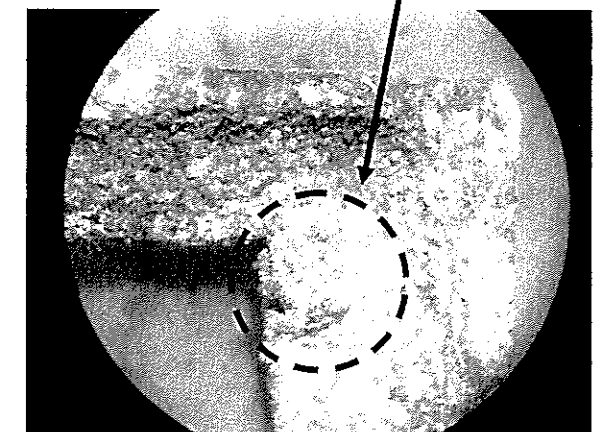


表

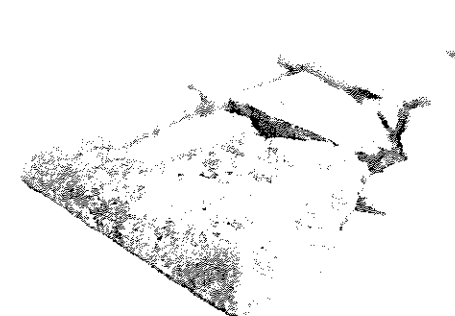
裏



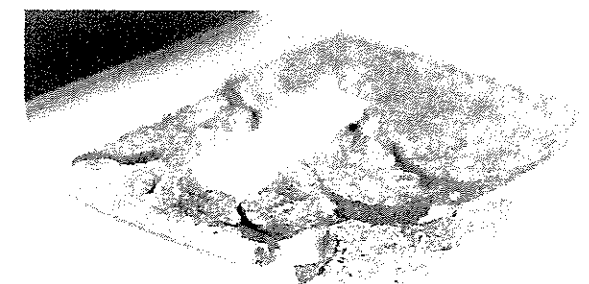
裏面：穴部



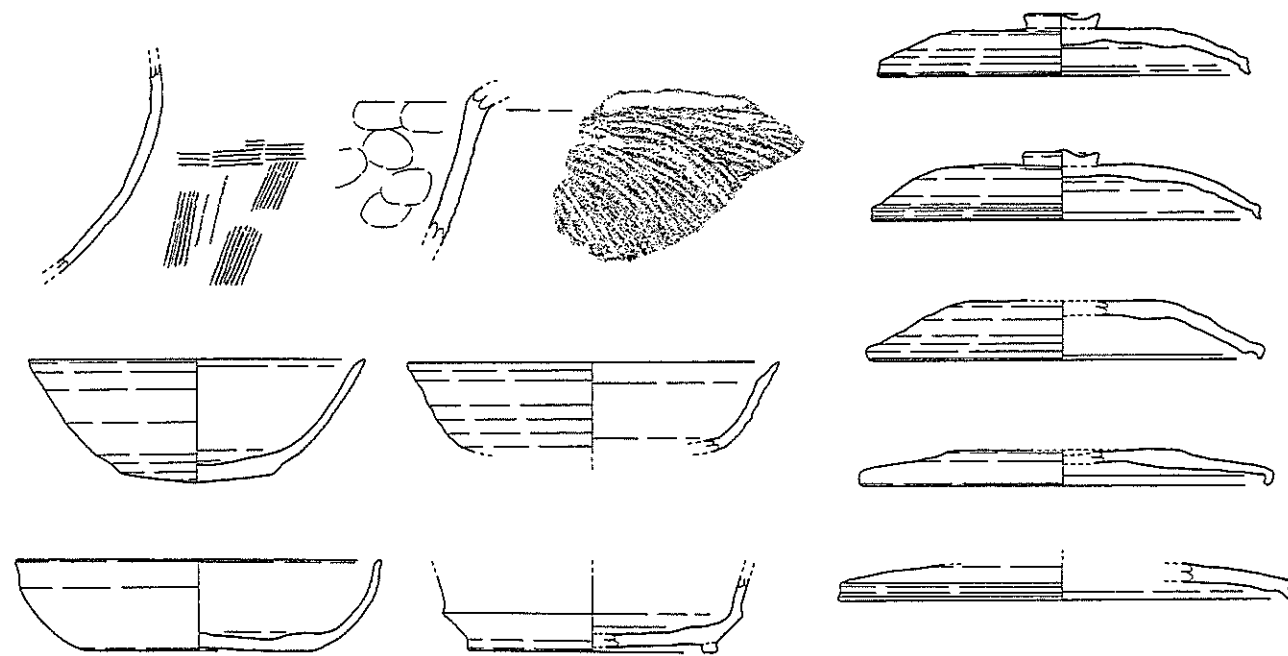
裏面：穴？部



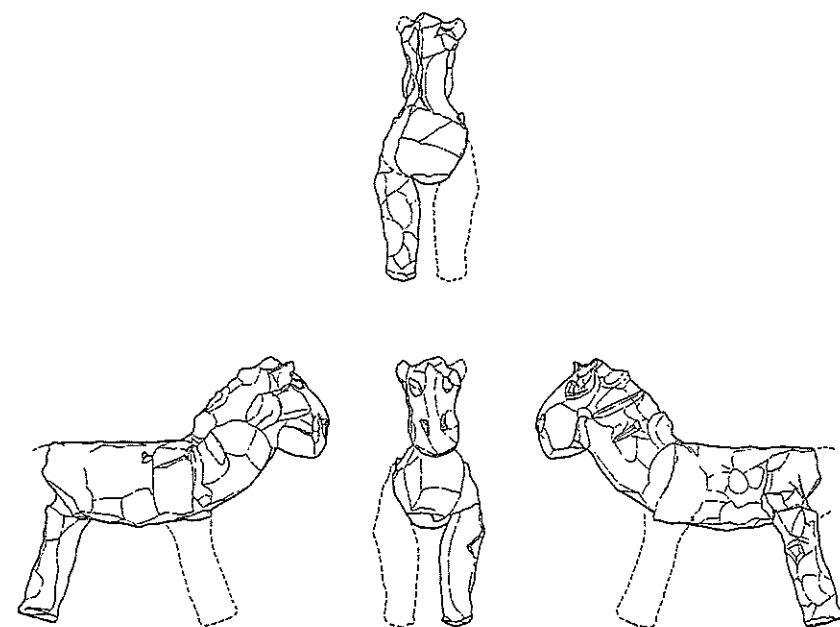
表



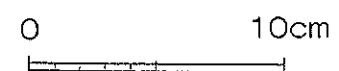
裏



SB5 出土遺物



SB6 出土遺物



河内町民俗資料整理（近世・近代の民具）について

（財）東広島市教育文化振興事業団
文化財センター 中山 学

I. はじめに

資料所在地：東広島市河内町宇山 河内町民俗資料展示室（宇山地域センター2階）

整理期間：平成23年6月1日から9月30日の約4ヶ月間

整理要因：東広島市教育委員会文化課からの委託事業

河内町中河内の旧河内民俗資料室の閉鎖に伴い、保管していた民俗資料を宇山地域センター2階（旧宇山小学校）に移動して整理、目録作成を実施しました。終了後の平成23年10月から展示室を開設して公開しています。

・民俗資料とは

風俗・習慣・伝説・民話・歌謡・生産・生活用具・家屋など古くから民間で伝承されてきた資料を指します。

II. 河内町の民俗資料の特徴

旧町内の農業（稲作、麦作）、林業、漁業、畜産業、製糸業、製茶などにかかわる各種生産用具が存在しており、近世・近代の典型的な日本の農村風景がうかがえます。同町宇山地区には苗とり唄、麦うち唄、臼ひき唄、茶摘み唄、茶もみ唄、茶さび唄、木びき唄などの「宇山民謡」が存在しており、他地域ではみられない農業民謡とこれら生産用具をセットで考えることは興味深いでしょう。また町内の祭礼での幟旗や盆踊りで配られた団扇などの生活雑器も存在しており、資料点数は434点を数えます。

III. 主な生産民俗資料について

稲 作：苗籠、田植杵、馬鍬、手鍬、鋤、除草機、千歯、唐箕、製縄機、舂

麦 作：播種機

林 業：前挽き（大鋸）、押鋸、丸鋸、帯鋸、杣手斧、木出し車、たたき印

漁 業：カニ籠、ウナギ籠、投網、タモ

畜産業：牛馬鞍、馬草鞋、飼料刈取鎌

製糸業：紡車、桑切り包丁、糸杵

製 茶：茶焙烙、茶臼

IV. 資料整理の成果

旧河内町内の明治から現代に至る生産・生活資料が目録化され、整理後ただちに公開されたことは意義深いといえます。今後は個別の資料の時期や製作地などの研究が待たれます。展示室は市内5か所目の民俗資料展示施設となり、隣接するさわやか茶屋とのコラボレーションで、先人の生きてきた証である民俗資料の持つ豊かさを多くの方々に認識してもらえることが期待できます。

東広島市重要無形民俗文化財 宇山民謡（宇山民謡保存会）

苗とり唄

ヤレー

苗をようとり 本登り苗をヨー
千ば百とり まだもとりヨー
ヨーイ ヨーイ ヨー

千ば百の苗 かぞえてみれば
千ば百せとは 数ばかり

声のでませぬ おなじみ様よ
声が出るよな 水たもれ

麦打ち唄

麦を打つときゃ

ヤーハンレーソリヤソリヤ

日のさかためてよー

しかもま夏の

ヤーハンレーソリヤ青空に
暑やはがるや

ヤーハンレーソリヤソリヤ

手拭いほしやー

さまのゆかたの

ヤーハンレーソリヤ袖なりと

臼ひき唄

ヤレー 臼をまわせば

まんまるこにもまわせ

臼の片びきや

粉があらい

ヤレー 臼をひけひけ

だんごにしてかせる

臼をひかんもんにか

見せておく

茶さび唄

宇山よいとこ

よい茶の出どこ

娘やりたや むこほしや

お茶をさびなされや

みの光あげて

先にやよい茶の とばぬよに

茶摘み唄

あれに見ゆるはヨ 茶摘みじゃな
いかヨ

あかねだすきに すげのかさヨ
アリヤ ヨーイ ヨーイ ヨー

宇山よいとこ 良い茶のでどこ

娘やりたや 婿ほしや

アリヤ ヨーイ ヨーイ ヨー

久留米がすりの 前掛けかけて

声を揃えて 茶摘み唄

アリヤ ヨーイ ヨーイ ヨー

安芸の宇山 茸豆どころ

飲んでおかえれ お茶の味

アリヤ ヨーイ ヨーイ ヨー

茶もみ唄

お茶はもめもめ

もみさえすれば

もめば茶となる お茶となる

なんぼもんでも

この茶はよれぬ

どこのやせ地の やせ茶

木びき唄

ヤレー こびきさん達やヨー

三升めし くろうて

松の根と木じゃ 泣いたげな

イヤサガレ サガレヤ

猿がこびきか

こびきが 猿か

赤い顔して 木をかぐる

こびき女房に

なるなよ 妹

こびきや身をもむ早よ死ぬる

※ 展示室は9：00～15：30開室。年末年始は閉室。入室無料。

※ さわやか茶屋は木曜日が定休日。

※ 問い合わせ先：東広島市教育委員会 生涯学習部 文化課（Tel420-0977）